

# 藤井麻耶 学位論文審査要旨

主 査 黒 沢 洋 一  
副主査 谷 口 晋 一  
同 尾 崎 米 厚

## 主論文

Trends in the co-use of alcohol and tobacco among Japanese adolescents: periodical nationwide cross-sectional surveys 1996-2017

(1996年-2017年の定期的全国横断調査を用いた日本の未成年におけるアルコールとタバコの併用状況の傾向)

(著者：藤井麻耶、桑原祐樹、金城文、今本彩、地家真紀、大塚雄一郎、井谷修、兼板佳孝、美濃部るり子、真栄里仁、樋口進、吉本尚、神田秀幸、尾崎米厚)

令和3年 BMJ open 11巻 e045063

## 参考論文

1. Heat-not-burn tobacco, electronic cigarettes, and combustible cigarette use among Japanese adolescents: a nationwide population survey 2017

(2017年全国調査を用いた日本の未成年における加熱式タバコ、電子タバコ、紙巻きタバコの使用実態)

(著者：桑原祐樹、金城文、藤井麻耶、今本彩、尾崎米厚、地家真紀、大塚雄一郎、井谷修、兼板佳孝、美濃部るり子、真栄里仁、樋口進、吉本尚、神田秀幸)

令和2年 BMC Public Health 20巻 741

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、1996年から2017年に実施した全国の中高生を対象とした大規模調査のデータを用いて、飲酒率と喫煙率の推移、飲酒の有無別にみた喫煙率の推移、喫煙の有無別に見た飲酒率の推移をわが国で、初めて明らかにしたものである。1996年から2017年にかけて、中高生全体の飲酒率・喫煙率ともに有意に減少しているものの、飲酒者における喫煙率は非飲酒者における喫煙率より高いうえに改善に乏しく、喫煙者における飲酒率は非喫煙者における飲酒率より大きく高いうえに改善が乏しいことを示した。また、将来の進学希望別の解析を実施し、喫煙率および飲酒率の改善度が小さい集団があることを明らかにした。平均値は改善傾向のある健康関連生活習慣においても、改善に取り残された集団が存在することを示唆しており、国際的に注目されている健康格差の視点からも価値のある研究である。本論文の内容は、わが国における青少年の喫煙および飲酒に対する公衆衛生学的な対策を改善し、発展させるうえで重要な知見となる研究であり、明らかに学術水準を高めたものと認める。